

② 歴史から学び、社会を主体的に創造するための日本史

- ▶ 創造や自主・自立の精神を重んじ、それらを育むことができるよう、先人たちが政治・経済・文化活動や技術開発などあらゆる分野で不断の努力を重ね、よりよい社会・生活と豊かな人間性を追求してきたことを系統的に記述しました。(教育基本法第2号に対応)
- ▶ 近代以降の世界において、個人の価値が見出され尊重されるようになってきた歴史的経緯を記述することによって、その重要性を知り、自他の価値と能力を互いに認め合う姿勢を身に付けることをめざしました。(同第2号に対応)
- ▶ 民主主義や基本的人権、男女の平等などが先人の努力によって歴史的に獲得されたものであることを記述し、それらを発展させていくことの大切さを理解させるとともに、その実現のために主体的な取り組みや他者との協力を重視する態度を養うことをめざしました。(同第3号に対応)
- ▶ 社会の発展や公共の福祉に尽くしてきた先人の歩みを記述し、社会に主体的に参画することの必要性を理解できるよう配慮しました。(同第3号に対応)

③ 日本人・地球市民としての自覚を養う日本史

- ▶ 歴史の中では時に戦争や災害などによって多くの人命が危機にさらされたこと、また人々がそれらを克服してきたことをも記述し、生命の重大な価値に気付かせ、あらゆる生命を尊ぶ姿勢と心を培うことができるように配慮しました。(教育基本法第4号に対応)
- ▶ 歴史を通じて人々が自然を利用・開発しながら生活を営んできたことを記述し、これを通して自然との共生をはかる態度を育成することをめざしました。(同第4号に対応)
- ▶ 歴史上の人々が自己の郷土や国家の発展に尽力してきたことを記述し、自他の国や文化・宗教などを互いに尊重し国際理解・異文化理解に努める態度を養うとともに、国際社会の諸課題と恒久平和のために能動的に取り組む姿勢を培うことができるよう配慮しました。(同第5号に対応)
- ▶ 文化財や遺跡・歴史的建造物などの写真を豊富に掲載し、伝統・文化への関心をもたせるとともに、それらを生み出した人々や身近な地域への敬意や愛着をもつことができるよう配慮しました。(同第5号に対応)
- ▶ 世界、特に東アジア地域の歴史を広く視野に入れた記述をすることによって、日本が様々な国や地域とかかわりながら歴史を営んできたことを理解させるとともに、国際社会の一員としての日本人の役割について考察させることをめざしました。(同第5号に対応)

2 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第1編	原始・古代の日本史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を、東アジアの動向もふまえながら丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました(第1号)。	第1編すべて

図書の 構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
	人々が自然環境にあわせて進化をとげ、道具の改良など様々な工夫によって、自然を利用しそれと共存しながら生活を営んできたことを記しました(第2号・第4号)。	12～17, 22 ページ
	今日につながっていく国家の仕組みを整え、公共の精神に基づいて社会の形成と発展に寄与した人々とその考え方・思想について記述しました(第3号)。	22, 24～25, 28～33, 36～40 ～41 ページ
	現在の国際社会の平和と発展について考察するための契機として、特に東アジアを中心とする国々との関係について丁寧に記述しました(第5号)。	18～21, 24～25, 28～29, 34～35, 39, 42, 44, 45 ページ
	原始・古代の人々が創造した宗教・もの・建造物などを図版・写真とともに取り上げ、伝統としてのそれらを敬愛する態度をもちうるよう配慮しました(第5号)。	15, 17, 22～23, 24～25, 26, 27, 29, 34～35, 38～39, 40, 44, 45 ページ
第2編	中世の日本史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を、東アジアの動向もふまえながら丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました(第1号)。	第2編すべて
	先人がその土地の自然環境に応じた作物の栽培や農業技術の改良に努めながら生産力を高めてきたことや、手工業・商業を発展させてきた人々の様子を、絵画資料などを豊富に用いながら記しました(第2号・第4号)。	48, 78～81 ページ
	戦乱の中で、民衆が生活や共同体を守るために自ら団結し、自治的な社会を作り上げていったことや、女性も一族や社会を担う存在であったことを記述しました(第3号)。	82～85, 93 ページ
	中世において現代にまでつながる芸術や生活様式が形成されたことを記し、伝統文化への理解を深めるとともに、今日的生活文化の背景を捉えることができるよう配慮しました(第5号)。	74～75, 53, 58, 60～63, 74～75, 90～91 ページ
	東アジアに成立したおもな国々と日本との政治的・経済的関係を系統的に記述し、武力を用いた衝突がありながらも互いに関係を深め、東アジア全体で活発な交易が行われるようになったことに触れました(第5号)。	51, 54, 64～65, 72～73, 75, 76, 77, 89 ページ
第3編	近世の日本史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を、東アジアや世界の動向もふまえながら丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました(第1号)。	第3編すべて
	身分制度が確立し、個人の価値や自由が制限される中でも、人々がそれぞれの職分を果たしながら生活を営み独自の文化を創造したことを記述しました(第2号)。	101, 104～105, 108～109, 120～123, 124, 125, 128～129, 136～139 ページ
	その時々政治家などが積極的に政治・社会制度の整備や改革に取り組み、社会の安定と発展に寄与したことについて、改革の前後の状況や影響、功罪まで含めて具体的に記述しました(第3号)。	98～101, 106～ 107, 110～111, 114～115, 126～ 127, 130～131, 134～135, 142 ページ

図書の 構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
	<p>農業や諸産業など自然の利活用が盛んになった様子や、自然災害によってしばしば社会の安定が脅かされた様子を記述し、自然とのかかわり方や環境保全について理解と考察を深められるよう留意しました（第4号）。</p>	116～117, 118～119, 130, 143 ページ
	<p>近世において、今日も親しまれている伝統文化・文物が、海外の影響を受けながら、あるいは独自の工夫によって生み出されたことや、身近な地域で育まれてきたことについて記述し、それらの探究を通して郷土への愛着を深められるよう配慮しました（第5号）。</p>	102, 104～105, 120, 122～123, 136～139 ページ
	<p>当時の日本を取り巻く世界史的状況を記述し、日本を含む国と地域が制約のある中でも関係を築き相互に影響を与え合ってきたことについて、生徒が国際社会の一員としての自覚と責任をもつ契機となるよう、意を用いて記述しました（第5号）。</p>	96～97, 102, 103, 110～113, 120, 132～133, 138～139, 144～145 ページ
第4編	<p>近代の日本史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を、世界の動向もふまえながら丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。</p>	第4編すべて
	<p>官民を問わず様々な人が将来を見据えながら自主的・自律的に改革や運動、勉学や勤労に邁進して新時代を築いた様子を、具体的な人物や事例を多く挙げながら記述しました（第2号）。</p>	151～159, 164～173, 184～193 ページ
	<p>民主主義や基本的人権など自由と平等を尊重する動きが広まったことを記述し、政治・経済や教育・文化などあらゆる面において改革が行われた経緯と今日に至る近代社会の歴史的意義を捉え、公共の福祉と主体的な社会参画のあり方について考察することができるよう配慮しました（第3号）。</p>	166～171, 188 ページ
	<p>産業の発達にともない、自然の汚染や破壊が進む一方で、環境保全の意識が芽生えていったことを記述しました（第4号）。</p>	184～187 ページ
	<p>日本が列強の一員となって東アジアに進出し植民地を建設していく過程を記し、それが東アジアの人々にもたらした影響について考察させるとともに、平等かつ平和的な国際関係の構築と相互の価値観や伝統を尊重することの重要性に気付かせることに意を用いました（第5号）。</p>	160～161, 172～173, 176～183 ページ
第5編	<p>二つの大戦期の日本と世界の歴史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。</p>	第5編すべて
	<p>この時代に現代の私たちの生活様式の基礎が形成されたことや戦争がもたらす生活への影響を記述し、生徒が自らの生活のあり方や、それにかかわる現代的な社会問題を客観的に捉え直す契機となるよう配慮しました（第2号）。</p>	202～203, 208～209, 228～229, 233 ページ
	<p>民主主義や人々の権利・平等などが、戦争や差別によって著しく制限された様子を記すとともに、差別の解消や権利の獲得に積極的に取り組んだ人々やその運動について記述しました（第3号）。</p>	200～201, 206～ 207, 210, 213, 217, 220～223, 226～227, 228～231 ページ
	<p>戦争を通じて国の内外を問わず多大な人命が人為によって失われ、国土の荒廃や環境破壊にもつながる兵器が使用されたことなどを記述し、生命と自然を尊重する心を育成できるよう意を用いました（第4号）。</p>	198～199, 222～233 ページ

図書の 構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
	二つの大戦が起こった経緯を、当時の国際関係を含めて丁寧に記述し、対話の重要性に気付かせ、平和的な国際社会の構築と発展を希求し、それに寄与する姿勢を育むことができるよう配慮しました（第5号）。	198～201, 212～227ページ
第6編	戦後から現在に至る日本と世界の歴史について、そこに現れた様々な社会的課題や成果を丁寧に記述・解説し、生徒のより深い理解と多角的な考察を促すことに意を用いました（第1号）。	第6編すべて
	家族制度や教育の民主化が図られるとともに、高度経済成長などを通じて労働や生活状態に変化と向上が見られたこと、また新たな問題も生まれてきたことを記述しました（第2号）。	236～243, 255, 256～259ページ
	民主化や差別解消などの実現に向けて戦後様々な改革や運動が進められたことを記し、それらの維持とさらなる発展のために、他者と協力し工夫を重ねることの必要性に気付かせることができるよう配慮しました（第3号）。	236～240, 249, 252～253, 254ページ
	戦後には産業の発展や核開発、災害などにより自然環境や人々の健康・生活を脅かすできごとがあり、対策がとられ克服の試みがなされてきたこと、一方で未解決の問題があることも認識できるよう意を用いて記述しました（第4号）。	249, 258～259, 266ページ
	戦後の世界では様々な対立がありながらも国際協調の努力が続けられてきた一方で、なお紛争が起こっている現状について、世界平和のために何が必要かを生徒が考察するために資するものとなるよう記述しました（第5号）。	246～247, 250 ～251, 253, 254, 260, 262～263, 266ページ
歴史編	日本史を学ぶにあたって必要な知識や技能を習得し、それを活用しながら諸課題について多角的に探究し、論述する力を身に付けることができるよう配慮しました。（第1号）	6～9, 84～85, 144～145, 270～273ページ
	様々な歴史的資料を取り上げ、それらに基づいて主体的に考察することにより、文化財としての資料の価値に気付かせるとともに、合理的に思考・判断する力を身に付け、社会の発展に寄与するための態度と能力の育成をめざしました。（第1号・第3号・第5号）	6～9, 84～85, 144～145, 270～273ページ

3 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ▶各編の冒頭には、これから学ぶ時代を概観する序文と年表を提示し、展望や振り返りの学習を行いやすくするよう工夫しました。
- ▶活字としてユニバーサルデザイン・フォントを使用したほか、色覚特性に配慮した色遣いをするなど、誰にとっても読み取りやすい教科書をめざしました。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-17	高等学校	地理歴史科	日本史B	
※発行者の 番号・略号	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
35 清水	日 B 313	高等学校 日本史B 新訂版		

1 編修上特に意を用いた点や特色

① 詳しく具体的な記述と豊富な視覚資料

- ▶ 中学校で学んだ歴史的理解をさらに深め、日本の歴史と文化について思索を重ねられるよう、丁寧かつ具体的に記述しました。
- ▶ 細かな事項の習得・暗記にとどまることのないよう、それぞれの事象の因果関係や歴史上における意義などを丁寧に解説し、理解を有機的に深めることができるよう留意しました。
- ▶ 本文は105のテーマでまとめ、1テーマを1授業時間とし、授業進度の目安としました。また、各テーマを明確にするため、タイトルを具体的な疑問文で提示し、生徒が興味をもって主体的に日本史を考察することができるよう工夫しました。

57 江戸幕府はなぜ滅亡したのか

長州戦争 そののうらけい 尊王攘夷運動が高まると、それに敵対的な勢力も結集することとなった。薩摩藩や会津藩は、

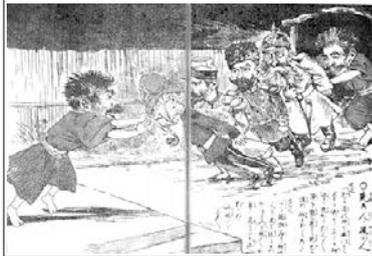
▲ p.152

▼ p.49

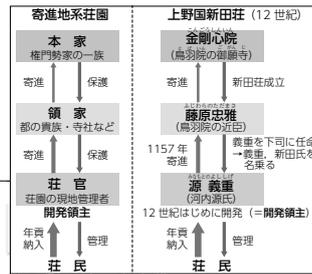
▼ p.135

- ▶ 視覚による理解と史料に基づく歴史学習を重んじ、写真や地図・文字史料・系図・概念図・統計など、多種多様な資料を豊富に掲載しました。

13 条約改正交渉 条約改正交渉で列強（左から英・仏・露・独）を日本ペースに追いこもうとする図。英が倒れかけていて陥落寸前と推測している。〔『国図珍覧』1893年10月21日号〕



p.174 ▶



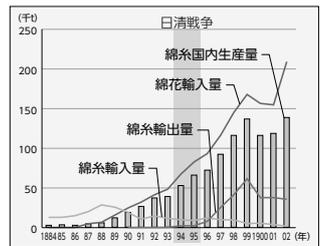
宛の側では、自由

史料 株仲間解散令

菱垣廻船問屋共より是迄年々金匁万石百両宛更加上納致来候処、問屋共不正之趣も相聞候に付、以来上納に不及候、尤向後右仲間株札者勿論、此外共都而問屋仲間并組合株と唱候様者不相成候十二月

〔譯訳〕 菱垣廻船問屋からこれまで年に金一万二百両の買加金が上納されていたが、問屋に不正があったと聞いたので、以後上納をやめさせた。今後は右の株仲間であることを証明する札はもちろん、その他すべて問屋仲間と組合など称してはならない。

〔天保十二年十二月〕



12 綿糸紡業の発展 (『近代日本経済史要覧』) 1894年に綿糸輸出税が廃止され、1896年には棉花輸入税が廃止された。

p.184 ▶

③ 東アジア・世界の歴史との関連を重視

▶日本の歴史を中心にしながら、その背景としての世界の歴史、特に東アジア諸国との歴史的環境や国際的な歴史についても系統的に記述しました。

15 撰関時代の文化の特色は何か

東アジアの動乱と民族文化の勃興

10世紀、東アジアの政治地図は大きくぬりかわった。かつて日本と国交のあった唐(907年)・渤海(926年)・新羅(935年)があいついで滅び、それに代わって、中国大陸の北部では契丹(遼)が、南部では宋が、朝鮮半島では高麗が登場した。

唐の衰えを伝え聞いた日本の朝廷は、遣唐大使に予定された菅原道真の建議により、とりあえず894年の遣唐使派遣を中止した。貴族たちの欲する唐物は来航する中国商人から入手できたこともあって、その後、遣唐使の派遣は計画されなかった。

10世紀以降の東アジアでは、それまでの中国文化の模倣から脱して、各民族の個性にあった文化へとつくりかえていこうとするうごきが生まれた。文字文化の面でそれは著しく、契丹、西夏(タングート)、女真などで、漢字をもとに独自の文字が考案された。日本でも、9世紀に表音文字として、漢字の草書体をもとにした平仮名、漢字の一部をとった片仮名が生まれ、10世紀にその使用が定着した。

▲ p.42

23 モンゴル(元)はなぜ日本を攻め取れなかったのか

ユーラシアの嵐

13世紀のはじめ、モンゴル高原にチンギス=ハンが出て、遊牧を生業とするモンゴル諸部族を統一すると、彼の孫の世代までに、モンゴルは西域の西夏、華北の金、西アジアのアッパース朝などを滅ぼし、一時は東ヨーロッパまでおびやかした。この大帝國を構成する国家群は、土地よりは人間中心の、機動性に富む軍事権力であった。チンギスの孫フビライは、帝国の東部を領有して中国王朝の性格を強め、1271年には国号を元にした。

モンゴル軍は1231年から朝鮮半島の高麗に侵略を開始した。当時高麗で実権をにぎっていた武人政権は、翌年都を開京から江華島に移して抵抗を続けたが、1260年にいたって従属的な講和を強いられた。1270年、三別抄という武人政権の軍隊が反乱をおこし、海上を南へ移動しながら抗戦を続けたが、3年後に済州島で元・高麗連合軍に壊滅させられた。

1261年、フビライは南宋と戦端を開き、1276年に首都臨安(杭州)を陥落させた。元軍は東南アジアにも侵攻し、1287年にミャンマーのパガン朝を服属させたものの、翌年ヴェトナムで大敗を喫した。また1292年のジャワ征討も失敗に終わった。

p.64 ▶

▶編纂では、各編で扱う時代の日本や世界の歴史を文章と年表でまとめ、時代と地域を広く捉える視点を養うことができるよう工夫しました。

第4編 近代1 明治期

明治期の日本と世界

- 欧米諸国における国民国家の形成と世界進出

イギリスやフランスをはじめとするヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国は、革命や内戦・独立戦争を通じて、19世紀末には国民国家へと転換していった。国民国家とは、明確な国境をもち、言語や歴史を共有する国民によって構成される国家のことである。

さらに、イギリスが18世紀に産業革命を実現し、19世紀になるとアメリカ・フランス・ドイツで産業革命が進行して、資本主義社会が形成された。各国では商品や余剰資本を輸出するため、海外市場を求めて世界へ進出した。その結果、19世紀後半から第一次世界大戦の時期にかけて、イギリス・フランス・ドイツなどのヨーロッパ列強やアメリカ、日本が植民地や勢力圏の獲得競争をおこない、世界を分割していった(帝国主義)。
- アジア諸地域と近代化の模索

ヨーロッパの列強はアフリカ・アジアの諸地域を「無主の地」(ほかのどこかの国にも属していない土地)として植民地にしていった。しかし、東アジアにおける中国・朝鮮・日本の3国とは、不平等ながらも条約を結んだように、「国家」として認められたため、3国は欧米の植民地となることを免れた。

東アジアなどの非ヨーロッパ地域では、独立を維持するために、西ヨーロッパの近代社会を象徴する制度や技術、さらにはその背後にある価値観を模範として採択しようとする動きがみられた。しかし、各地域の伝統的な価値観と衝突することになるため、反発や抵抗を生むことも多かった。
- 日本の近代化

ペリーの来航によって西欧国際社会に強制的に編入された幕末期の日本では、当初、「攘夷」が盛況をふるった。しかし、攘夷を主張して江戸幕府を倒した明治新政府は、政権をにぎるとすぐに「開明」を奉じたところから、転じて「文明開化」を進めていった。それは、政治や経済のみならず、文化や風俗にもおよび、徹底的なものであった。さらに、1880年代前半になると、条約改正を実現するため、積極な欧化政策が進められた。

その結果、日本も欧米にならって、憲法や議会政治をはじめ、さまざまな制度を導入し、国民国家の建設を進めた。また、対外的にも、19世紀末には日本も帝国主義の一員となった。

時代	西暦	日本の近代・明治期	朝鮮半島	中国	欧米
江戸	1860	ペリー来航、開港、幕府の権威低下、尊王攘夷運動、結核連合村藩運動			
明治	1870	明治維新、藩制の改革、文藝革新、自由民権運動、西南戦争			
明治	1880	立憲体制の確立、大日本帝国憲法公布			
明治	1890	初期開化、藩閥政治と民権の対立			
明治	1900	藩閥政治と民権の対立、社会主義運動			
明治	1910	桂田時代(第5編)			

▲ p.146 ~ 147

2 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
歴史編1【歴史と資料】奥州平泉「仏国土」の世界	(1) 原始・古代の日本と東アジア ア	6～9ページ	5
第1編 原始・古代	(1) 原始・古代の日本と東アジア	10～45ページ	17
第1章 日本文化のあけぼの	(1) 原始・古代の日本と東アジア イ	12～19ページ	4
第2章 古代国家の形成と東アジア	(1) 原始・古代の日本と東アジア イ	20～27ページ	4
第3章 律令国家の成立と都城	(1) 原始・古代の日本と東アジア イ	28～35ページ	4
第4章 古代国家の推移と社会の変化	(1) 原始・古代の日本と東アジア ウ	36～45ページ	5
第2編 中世	(2) 中世の日本と東アジア	46～93ページ	26
第1章 古代から中世社会へ	(2) 中世の日本と東アジア イ	48～53ページ	3
第2章 武家政権の成立と鎌倉文化	(2) 中世の日本と東アジア イ	54～67ページ	7
第3章 室町幕府と北山文化	(2) 中世の日本と東アジア ウ	68～81ページ	7
第4章 下剋上の社会と庶民の台頭	(2) 中世の日本と東アジア ウ	82～83, 85～93ページ	5
歴史編2【歴史の解釈】中世の村落生活を復元する	(2) 中世の日本と東アジア ア	84～85ページ	4
第3編 近世	(3) 近世の日本と世界	94～145ページ	28
第1章 中世から近世社会へ	(3) 近世の日本と世界 イ	96～105ページ	5
第2章 幕藩体制の成立と国際関係	(3) 近世の日本と世界 イ	106～113ページ	4
第3章 幕藩体制の展開と元禄文化	(3) 近世の日本と世界 ウ	114～125ページ	6
第4章 幕藩体制の動揺と化政文化	(3) 近世の日本と世界 ウ	126～143ページ	9
歴史編3【歴史の説明】「鎖国」という言葉の歴史	(3) 近世の日本と世界 ア	144～145ページ	4
第4編 近代1 明治期	(4) 近代日本の形成と世界	146～193ページ	23
第1章 近世から近代社会へ	(4) 近代日本の形成と世界 ア	148～153ページ	4
第2章 明治維新と立憲国家の成立	(4) 近代日本の形成と世界 ア・イ	154～173ページ	9
第3章 日清・日露戦争と東アジア	(4) 近代日本の形成と世界 イ	174～183ページ	5
第4章 近代産業の発展と国民生活	(4) 近代日本の形成と世界 ウ	184～193ページ	5
第5編 近代2 大戦期	(5) 両世界大戦期の日本と世界	194～233ページ	19
第1章 第一次世界大戦と日本の社会	(5) 両世界大戦期の日本と世界 イ	196～201ページ	3
第2章 政党政治の発展と大衆社会	(5) 両世界大戦期の日本と世界 ア	202～211ページ	5
第3章 第二次世界大戦への道	(5) 両世界大戦期の日本と世界 ウ	212～219ページ	4
第4章 第二次世界大戦と日本の社会	(5) 両世界大戦期の日本と世界 ウ	220～233ページ	7
第6編 現代	(6) 現代の日本と世界	234～269ページ	17
第1章 占領下の日本	(6) 現代の日本と世界 ア・イ	236～245ページ	5
第2章 日本の独立回復と戦後政治	(6) 現代の日本と世界 ア・イ	246～255ページ	5
第3章 経済大国日本への道	(6) 現代の日本と世界 ア・イ	256～261ページ	3
第4章 現代の世界と日本	(6) 現代の日本と世界 ア・イ	262～269ページ	4
歴史編4【歴史の論述】 地域からみた戦争・占領・平和一光が丘の現代史	(6) 現代の日本と世界 ウ	270～273ページ	5
		計	140